

税金からこれからの日本社会について考える

酒田市立東部中学校教諭 3学年 和根崎 遼

実施年月日：平成31年1月 50名

1 実践計画・指導のねらい

今年の10月には消費税が10パーセントに引き上げられる。その感想を生徒に問うてみたところ、実に9割以上の生徒が「増税には反対」という答えであった。しかし、その理由はどれも「負担が増えるから」だった。なぜ、増税という選択が必要なのか、また、集められた税金はどのようにして私たちの生活に還元されているのかを理解し、これからの税や社会保障のあり方について考えを深められるような授業を目指したい。また、多くの生徒が「税金はみんな公平に負担すべき」という考えであったが、「公平」という考え方は様々あり、税負担の方法について、合意形成する難しさについても理解させたい。

2 単元構成・実際の指導状況

時間	学習内容	主な発問 (○)、子どもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	「私たちの生活と財政」 ・国の財政について関心をもつ。 ・市場経済における政府の役割を考える。	○「市場経済において、政府はどのような役割を果たしている？」 ●景気を安定させるために、具体的にどのような政策が行われているのか理解できた。 □帝国書院『中学生の公民』 とうほう『ビジュアル公民』 国税庁HP「税の学習コーナー」
2 3	「国の歳出・歳入と社会資本」 ・国の歳出・歳入のあらましと抱える課題を理解する。 ・国民生活を豊かにする社会資本の充実について理解する。	○「政府はどのようにお金を集め、どのようなことに使っているのか」 ●国の歳出では、「社会保障費」が増えていることがわかった。 ●税には色々な種類があると分かった。 ●税がないと生き辛い世の中になると感じた。 □帝国書院『中学生の公民』 とうほう『ビジュアル公民』 DVD「ご案内しますアナザーワールドへ」

【指導のポイント】≪1時間目≫

当たり前と感じている公共サービスについて、導入にアメリカ・サウスフルトン市の事例を紹介した。他にも具体的な事例をあげながら、財政について理解を深めることができた。

【指導のポイント】≪2時間目≫

DVDを活用して、税のない社会を想像しながら、税を徴収し活用することの必要性について考えを深めることができた。



時間	学習内容	主な発問 (○)、子どもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
4	「社会保障と私たちの生活」 ・社会保障の制度や種類を理解し、これからの社会で必要なものやどうあるべきかなのかを考える。	○「社会保障はこれからどうあるべきか考える」 ●社会保障費はこれからも増えていく。高福祉・高負担型の社会を目指すべき。 ●どうやって国の借金を返済していくのか悩ましい。 □帝国書院『中学生の公民』 とうほう『ビジュアル公民』 財務省・財政学習教材「日本の財政を考えよう」
5	「公平な社会ってどんな社会？」 ・シミュレーションを通して、累進課税制度や税の公平の考え方を理解する。 ・公平な社会のあり方について、多面的・多角的に考え、判断する。	○「税を公平に負担するにはどうすればよいか考えよう」 ●より恩恵を受ける人が少し多めに税金を負担するのが公平。 ●収入に応じて税率を計算し負担してもらうのが最も公平。 ●収入だけでなく、生活面についても考えるべきである。 □帝国書院『中学生の公民』 ワークシート

【指導のポイント】≪3時間目≫

財務省の資料を活用して、膨大な金額を具体的にイメージしながら授業を行った。少子高齢化が加速するこれからの社会における社会保障制度のあり方について、考えを深めることができた。

【指導のポイント】≪4時間目≫

子育て世帯や、経営者などの立場を演じてみながら、よりよい税負担の方法について考えた。生徒は、他との意見を交流しながら学習することで、公平の考え方にも様々なことを学んだ。



3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

- ◎ DVDや財務省の資料などを活用し、映像や図表により具体的なイメージを持たせながら「税」についての学習を進めることができた。また、自分たちから集められた税金はどのように社会で活用されているのか理解することができた。
- ◎ 他と意見を交流しながら授業を行ったことで、これからの税負担や社会保障のあり方について生徒一人ひとりが考えを深めることができた。
- ◆ 財務省等の資料の中には、中学生には理解に難しいものが多く、授業で利用可能なものの精選に多くの時間を要した。